

## 野村四郎

東京芸術大学名誉教授

(社)日本能楽会会長 (社)観世会監事 (社)鏡仙会理事

伝統を重んじつつも多様にして新たな試みで  
能の芸能としての展開をめざすとともに  
日本能楽会(重要無形文化財総合認定団体)の会長として  
流儀を超えて能楽界のリーダー役

- 1936年(昭和十一年)和泉流狂言方六世野村万蔵家に出生
- 1952年 二十五世観世元正に内弟子入門 観世寿夫に師事
- 1955年 初シテ『俊成忠度』
- 1962年 独立、これより観世流シテ方として活躍
- 1978年 日本能楽会会員の重要無形文化財総合認定保持者
- 1987年 野村四郎の会『求塚』で文化庁芸術祭優秀賞
- 1994年 芸術選奨文部大臣賞
- 1998年 紫綬褒章
- 2003年 第二十五回観世寿夫記念法政大学能楽賞
- 2006年 2005年度第六十二回日本芸術院賞―近年の舞台活動に対して
- 2007年 社団法人日本能楽会会長に就任

古典の秘曲、大曲あるいは復曲能のかずかずを上演

- 『猩々乱』『石橋』『道成寺』『恋重荷』『砧』
  - 『屋島大車』『鷲』『卒塔婆小町』『鸚鵡小町』
  - 『三輪 誓納』『檜垣』『姥捨』『芭蕉 平調返』『木曾 願書』ほか
- 新たな試みにとりくむ作曲・作舞・上演・演出
- ・新作能

『実朝』(原作：高浜虚子)、『水底の感』(原作：夏目漱石)

・異分野の邦楽と共演

- 『熊野の物語』『相聞』『竹取物語』『賢治宇宙曼荼羅』『スサノヲ』
- 『謡かたり隅田川』(「謡かたり三人の会」豊竹咲大夫・村尚也と結成)
- 『葵上』(山田流箏曲による) ほか

・他流との共演

- 『隅田川』(宝生流と)等
- ・オペラ演出と出演

『浦島』(坪内逍遙原作)、『オルフェオ』(モンテヴェルディ作)

海外への能楽普及

・ヨーロッパ、アメリカ、インド等で能楽を公演、世界各地普及に貢献

後進の育成指導

- ・観世流職分として能楽界の後進を育成
- ・東京藝術大学音楽学部教授として能楽研究と教育
- ・ワシントン大学、ハワイ大学等で能楽指導

野村家の人々

- ・長男の野村昌司は観世流シテ方能楽師、2006年「道成寺」を抜く
- ・和泉流狂言方の野村萬・野村万作・野村万之介は兄弟
- 野村萬斎・野村万蔵・野村万禄は甥